

令和 6 年度

長岡工業高等専門学校 AIR Tech エンジニア育成プログラム
自己点検・評価報告書

令和 7 年 4 月 10 日

実施担当部署：AIR Tech ワーキンググループ

自己点検担当部署：教務委員会

令和 6 年 3 月 1 日から令和 9 年 2 月 28 日までの 3 ヶ年での計画に基づき、単年ごとの自己点検・評価をおこなう。
本自己点検・評価報告書の評価対象期間は令和 6 年 3 月 1 日から令和 7 年 2 月 28 日までの 1 年 0 ヶ月間である。

実施状況

- 4:実施した（年度計画に対して 100%の実施率）
- 3:おおむね実施した（年度計画に対して 75%程度の実施率）
- 2:半分の項目について実施した（年度計画に対して 50%程度の実施率）
- 1:一部の項目について実施した（年度計画に対して 25%程度の実施率）
- 0:全く実施していない（年度計画に対して 0%の実施率）

評価

- S:年度計画を上回って実施している
- A:年度計画に基づき十分に実施している
- B:年度計画に基づきおおむね実施している
- C:年度計画に基づき半分程度実施している
- D:年度計画に基づき一部実施している
- E:全く実施できていない

1. 学内からの視点
(リテラシーコース)

項目	実施担当部署作成					自己点検担当部署	
	3ヶ年計画	実施状況	実施内容・実績・課題		根拠資料	評価	講評
1.1 プログラムの履修・修得状況	令和元年度入学者からリテラシーコースの履修率100%を維持する。	4	実施内容	教務委員会および基礎情報処理担当者と連携し、基礎情報処理のシラバスにAIリテラシー授業の到達目標、授業計画、評価方法を記述している。令和元年度入学者より履修率100%を達成し、現在も維持している。令和6年度は200名の学生が基礎情報処理の授業内でAIリテラシー授業を受講した。		A	来年度も引き続き100%の受講率となるように各部署と連携しながら進めてもらいたい。
			実績	令和6年度の受講率100% 前年度までの受講率100%			
			課題	特になし。100%を継続する。			
1.2 学修成果	AIリテラシー授業の最終回に確認点テストを実施し、テスト結果を学生に開示することで学習成果の可視化を実施する。	4	実施内容	AIリテラシー授業の最終回に確認テストを実施し、学生たちの学習成果を確認している。確認テストの結果は最終の授業時間内に学生に開示し、学生自身が学びを確認できる。	[資料①]確認テスト 成績	A	来年度も引き続き確認テストを実施し、学生自身が学びの成果を確認できるように進めてもらいたい。
			実績	令和6年度確認テスト受検者数：200名 令和6年度学年平均点：7.0点 前3ヶ年学年平均点：6.6点			
			課題	確認テストの実施を継続し、問題ごとの得点分布を分析する。点数の低かった問題について理解度が高まるように講義を改善する。			
1.3 後輩等、他の学生への推奨度	教育プログラムの公式Webページ作成、学生へのアンケートから満足度を調査。	3	実施内容	教育プログラムの公式Webページは昨年度までに作成して公開しており、年度ごとの報告を更新している。	[資料②]公式Webページ [資料③]リテラシー授業アンケート結果	B	今年度のアンケート回答率が半分程度であるため、課題に記載されているような取り組みにより、来年度には改善されていることを期待する。
			実績	AIリテラシー講義に関するアンケートでは、「総合的に判断して、このリテラシー授業を受けて良かった。」の項目で、回答者の97%以上が「非常にそう思う」「ややそう思う」と回答した。また、講義に関してもポジティブな意見が多く、PCの操作に不慣れな学生でも比較的高い満足度で授業を受けていることが把握できている。アンケートにより講義内容に対する満足度を継続的に調査している。			
			課題	アンケートの回答率を高められるように、AIリテラシー授業の最後での回答の時間を作るように各学科授業担当者に伝達を徹底する。また、アンケートの自由記述を踏まえてプログラムの改善を進めていく。 令和6年度のアンケート回答者数：111名（53%）			

(ベーシックコース)

項目	実施担当部署作成					自己点検担当部署	
	3 ヶ年計画	実施状況	実施内容・実績・課題		根拠資料	評価	講評
1.4 プログラムの履修・修得状況	毎年、2 学科以上から合計 40 人以上のベーシックコースの修了生を輩出する。また、年間 5 人以上のベーシックコースプラスの修了生を輩出する。	3	実施内容	令和 6 年度に本教育プログラムの規定を改定し、この年度の卒業生からからコース修了生を輩出できることとなった。今年度は選択科目を選ぶ前にコースの周知ができなかったが、EE 科と EC 科の 2 学科からベーシックコースの修了生を輩出することができた。		B	現状ではベーシックコース修了生の所属学科に偏りが生じているため、課題に記載されているようにプログラムの認知度を高めるような取り組みが必要である。このような取り組みを通し、ベーシックコースプラス修了生も徐々に増加していくことを期待する。
			実績	令和 6 年度のコース修了生数（予定） ベーシックコース：37 名（EE：1, EC：36） ベーシックコースプラス：1 名（EC：1）			
			課題	EC 科以外の履修生をもっと増やせるようにコースの認知度向上の取り組みを推進していく。将来的にさらに抜本的にコース修了生を増やせるように、各学科の選択科目でベーシックコースを履修できるようにカリキュラムの検討を進めていく。			
1.5 学修成果	コース必修科目の選択科目の定期試験において、本プログラムの理解度を確認する問題を出題し、学習成果を可視化する。また、コース修了生に対してアンケートで学修成果を確認する。	2	実施内容	令和 6 年度はシラバスの評価項目として含めていなかったため定期試験で出題することは断念せざるを得なかった。次年度のシラバスには公開時から評価項目に追加している。 コース修了生に対するアンケートは実施することができ、26 名からの回答を得た。	[資料④]修了生アンケート結果	B	課題に記載されているような取り組みにより、来年度には改善されていることを期待する。
			実績	アンケートにおける「ベーシックコースを履修したことで AIR Tech を応用する基礎力が向上したと思いますか？」の項目で回答者の 100% が「とてもそう思う」「そう思う」と回答した。			
			課題	理解度が適切に評価できる試験問題を検討する。また、アンケートに関しては安定してアンケートの回答率を高められるように、学級担任へ周知協力を依頼するなど、適切な形を検討していく。			
1.6 後輩等、他の学生への推奨度	教育プログラムの公式 Web ページの作成・運用を行う。また、コース修了生へ後輩への推奨度のアンケート調査を行う。	3	実施内容	教育プログラムの公式 Web ページはすでに公開しており、今年度はベーシックコースについての記載を追加した。 コース修了生に対するアンケートは実施することができ、26 名からの回答を得た。	[資料②]公式 Web ページ [資料④]修了生アンケート結果	B	課題に記載されているような取り組みにより、来年度には改善されていることを期待する。
			実績	アンケートにおける「後輩や中学生などにベーシックコースの履修をお勧めしたいですか？」の項目で回答者の 96% が「とても勧めたい」「勧めたい」と回答した。			
			課題	アンケートの回答率を高められるように、学級担任へ周知協力を依頼するなど、適切な形を検討していく。			

2. 学外からの視点

項目	実施担当部署作成					自己点検担当部署	
	3ヶ年計画	実施状況	実施内容・実績・課題		根拠資料	評価	講評
2.1 教育プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価	プログラム修了者、技術協力会等関係企業に対して今3ヶ年評価期間（令和6年3月1日から令和9年2月28日）の間にアンケートを実施する。	2	実施内容	令和6年度はプログラム修了者に対するアンケートを実施した。次年度以降も同様のアンケートを継続する。	[資料④]修了生アンケート結果	B	課題に記載されているような取り組みにより、来年度には改善されていることを期待する。
			実績	令和6年度のプログラム修了者のアンケート回答数：60名			
			課題	次年度に技術協力会を通じて関係企業に対するアンケートを実施する。			
2.2 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	学外への報告として、今3ヶ年評価期間（令和6年3月1日から令和9年2月28日）の最終年に、産官学の有識者に外部評価を依頼し実施する。	3	実施内容	本プログラムに関する取り組みについて、年に1件程度の学外向け講演や発表を行う。	[資料⑤]学会プログラム	A	来年度も引き続き学外での報告を実施し、教育プログラムの改善に活かしてもらいたい。
			実績	令和6年度：学外への報告1件			
			課題	特になし。外部評価に向けて準備を進める。			

3. 国策からの視点

項目	実施担当部署作成					自己点検担当部署	
	3ヶ年計画	実施状況	実施内容・実績・課題		根拠資料	評価	講評
3.1 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」、「学ぶことの意義」を理解させること	教育の高度化・広範化を目指し、AIルームの機能を充実させ、広く活用できるようにする。	2	実施内容	令和4年度に導入したAIルームのワークステーションにおいて、画像生成AIであるFLUX1.0を利用できるようにした。また、コミュニケーションロボットPALROと、AIの学習データ収集用にデジタルカメラを10台購入した。		B	課題に記載されているような取り組みにより、来年度には改善されていることを期待する。
			実績	導入した画像生成AIとコミュニケーションロボット、デジタルカメラを利用することでAIリテラシー授業の内容や実施方法の改善・高度化することができた。			
			課題	次年度以降、AIルームを学生や教職員がより利用しやすくなるように、学内開放などの手続きを検討していく。			
3.2 内容・水準を維持・向上しつつ、より「わかりやすい」授業とすること。	教員の教授力向上に資する学内研修を実施する。	2	実施内容	令和6年度の講義から生成AIに関する説明やその影響、問題点などを講義内容に追加した。それに伴い、学生に講義を行う教職員を主な対象として講義内容の説明会を含む研修会を行った。	[資料⑥]説明会案内メール	B	課題に記載されているような取り組みにより、来年度には改善されていることを期待する。
			実績	令和6年度研修参加者：9名			
			課題	次年度、全教職員向けにAIルームの活用方法などに関する説明会や研修会を実施する。			